



# 金田一耕助カバー展



tontokaimo39

## はじめに

---



横溝正史の文庫を中心としたカバー展です。横溝氏の本、金田一耕助の本と言えば、ネットには凄いページがいくつかあります、そのため今更と思ったのですが、まあ私は私なりに...本当は文庫の金田一耕助としたかったのですが、それだけのネタがなくて...

私は、横溝氏の本の蒐集家でも何でもありません、ただミステリーと文庫本が好き、中でも金田一耕助はホームズに次いで好きなので、いろいろなカバーや表紙をPCの画面で眺められたら楽しいのではと... (一番好きなのは夕子)

したがって、資料的な価値はまったくありません、また全てが揃っているわけでもありません、あくまでも数点のカバーや表紙の表示に過ぎないのですが、できるだけ眺めて楽しいものにしたつもりですので、暇つぶしにでも見ていただければ幸いです。



左右は出版芸術社の「金田一耕助の新冒険」と「同帰還」中央は雑誌「幻影城」の「横溝正史の世界」

文庫だけでなく単行本や雑誌も混ざっていますが全てがほぼ同一の大きさに縮小されています、本来は判形など詳細に書くべきですが、めんどうなので省略しました、また文中に出てくる人名に対しての敬称も略させていただきます。

### おわび

PDFのことを考えずに書いていたので直しました、それ以前に見ていただいた方におわびします。

# まず金田一探偵

## まず金田一探偵

横溝正史が疎開していた岡山県倉敷市真備町の家を見学しました。カメラをぶら下げてブラブラ歩いていると通りがかった人が「どこからきんさった？金田一さんが目当ですかハハハ」と声をかけられました、「時々イベントがあるのですよ、あるイベントでは金田一さんがあっちにもこっちにも、どれがほんとの金田一さんやら...ワッハハ」と言うことで私も思わず「ハハハ」真備町のあれこれについて親切に教えていただきました。



横溝正史の本と言えばまず目に浮かぶのが派手でオドロオドロシイ絵なのですが、角川文庫にもこんなかわいいのがあったのですね。

下は、カバーの後ろ側です、バーコードなどという不粋なものなかったころはカバーの後ろも結構楽しめたのですが...裏の二人は磯川警部でしょうか、それとも等々力警部？

「金田一耕助の冒険」一冊にまとまったものもあるのですが、カバーの絵がこのページとなじまないのので別の機会に。

春陽堂文庫 1

春陽堂文庫「横溝正史長編全集 全二十冊」の一部です、横溝正史の文庫本第一号はここから出たと記憶しているのですが。



第一冊は「本陣殺人事件」、金田一耕助最初の登場、非常に面白いのですが、殺人の動機だけは納得できませんでした。知人に「これホームズの本歌取だ」と言ったところ「まさか」と本気にしなかったのですが、横溝氏自身もそうだと言っています。

春陽堂文庫 2

角川と平行して発売されていたころの春陽堂文庫です（順不定）描かれている女性は全て凄い美人...笑



巻末には、「金田一耕助の徹底解剖」と言う付録が付いています、これは金田一ファンには見逃せないところではないでしょうか。



上は春陽堂文庫の中で古いものではなくむしろ新しいもの、「探偵小説傑作選 探偵CLUB」のなかの二冊です。発表当時の雑誌の挿絵が入っていて面白い。左「覆面の佳人」は江戸川乱歩との合作。挟んであったパンフによると、森下雨村、小酒井不木、甲賀三郎などが並んでいて春陽堂ならではの企画です、春陽堂文庫は最近書店で全く見かけないのですがどうなったのでしょうか？

角川文庫

映画とタイアップし、空前の横溝ブームを起こしたのが角川文庫です。（掲載順序に意味はありません。）



角川文庫 2

この文庫のカバーはよく変り、もう何がなんだか...これを対象にしたコレクターもいるのだとのこと。

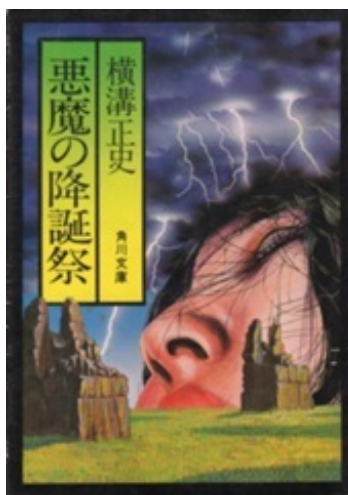
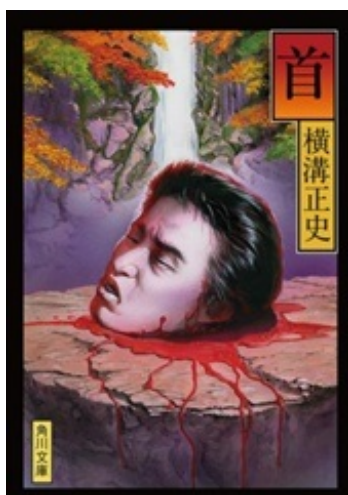


「鬼火」と「蔵の中」題名は違いますが、中は同じもの、カバーの絵だけでなく題名まで変えるのは読者に対して少々... (もともと「蔵の中」の背文字は「蔵の中・鬼火」となっています)



角川文庫 3

普通旧版とそれ以降に分けられるようです、このあたりは詳しいサイトに譲ることにして、現在はなんととも薄汚いものに...



# 八つ墓村

## 八つ墓村

八つ墓村は、実際に起こった津山事件をモデルにしたもの、この事件の地津山市加茂町ともまた横溝氏が県北鳥取県境と設定し、八つ墓の名前のもとだろうと言われている八束村(現真庭市蒜山地区)とも離れているのですが、映画のロケ地になった、高梁市成羽町の広兼邸を訪ねてみました、広兼氏は付近で産出する銅によって財を成したと言う、城郭を思わせる堂々とした門をくぐると、屋敷は広大なものの普通の民家のつくり、規模こそ違うのですが薪を使う炊事場や風呂場などの様子に、子どものころの我が家を思い出して実に懐かしい思いにかられながら見学しました。

ボランティアの方がいろいろ説明してくださった後「もう鍾乳洞には行かれましたか?」「ええ井倉洞ですね」「ああ井倉洞は広い穴だが一本道、もう一つ満奇洞というのがあって、こっちはわき道が迷路のようにになっている、横溝さんの小説にはこっちの方がびったりなんですよ、それにね、実はこの屋敷の裏にも穴があるのですよ、それが満奇洞に続いている」「え、まさか!」「ハハハ、続いていたら面白いのですが、本当は物置などに使われていたそうです」

水琴窟の涼しそうな音色を聴くことができました。

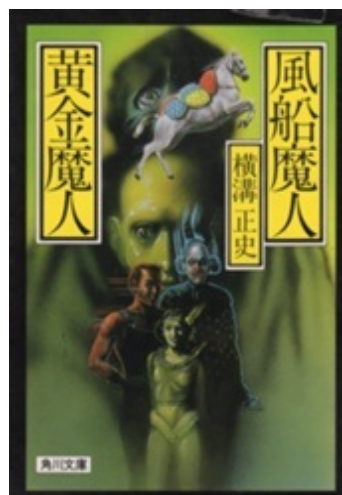


満奇洞は元々まきの里にあるため、「まきの穴」と呼ばれていたそうです、それを与謝野晶子の歌にちなんで満奇洞にしたとか、素朴な「まきの穴」の方がずっといいと思うのですが...



ジュヴナル 1

角川文庫のジュヴナルです、順序はでたらめ。



黒い背に黄色の文字、これがジュヴナルの印だったのですが、後の版では白い背になっています。

ジュヴナル 2

上三冊少年クラブ文庫、他はソノラマ文庫。



角川文庫 5

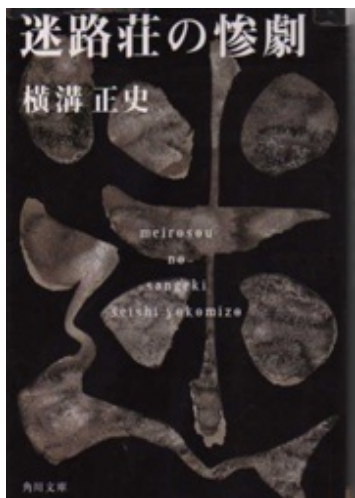
背景の白っぽいものを並べました、それ以外意味はありません。



# 角川七変化

## 角川七変化

この駄作のために、久しぶりに書店の角川文庫の棚を覗きました、なんだ？横溝文庫なんだが汚いカバーになってしまっているではありませんか...角川の変身はまあよく知られているところなのですが。（一冊だけ右のようなものがありました...これなんだろう？）

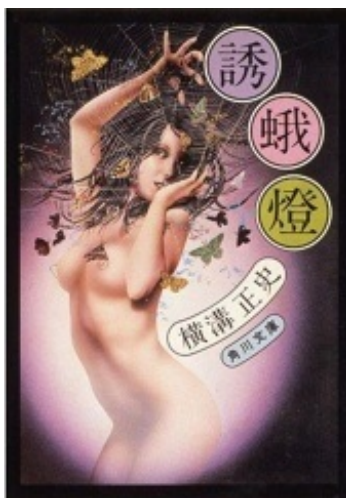


変身は、カバーの図柄やその背だけに止まらず表紙も変わっています、もともとカバーなどなかった文庫本に親しんだ世代の私にとってどうしても表紙が気になるのですが、左は文庫本の中で最も気に入っていたもの、やがて中のようにオゾマシイものに、どうやら今後は右になるらしい。

横溝文庫には、カバーは同じでも表紙は左と中のもがあるようです、コレクターはこれも別種としているのでしょうか？

角川文庫 6

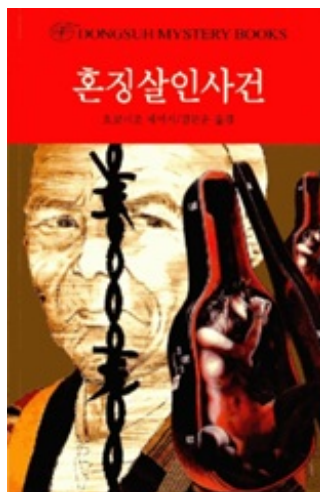
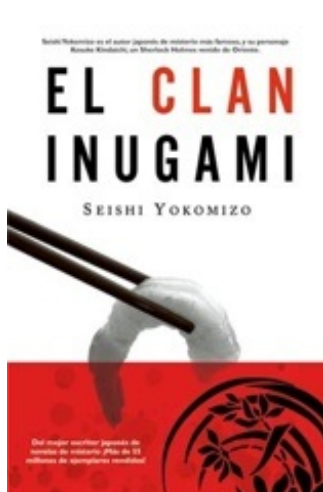
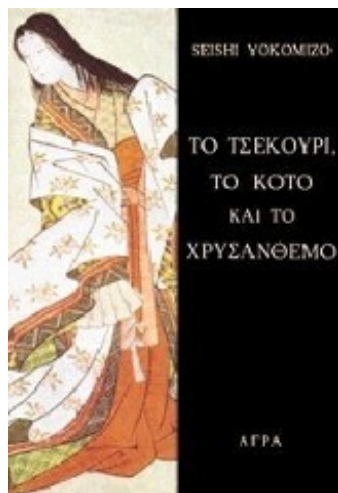
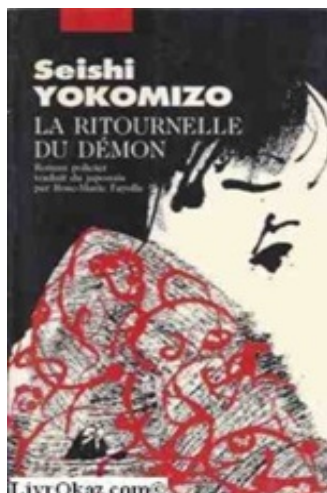
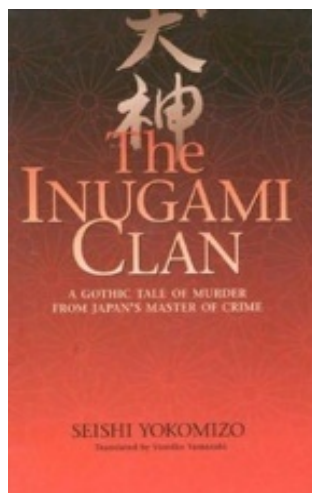
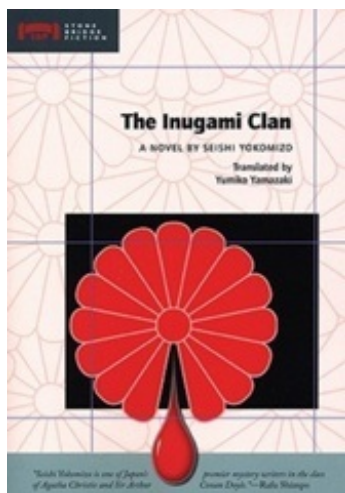
少し整理して載せればいいのですが...





## 世界の横溝

横溝正史の作品は、いろいろな言語に訳されています。

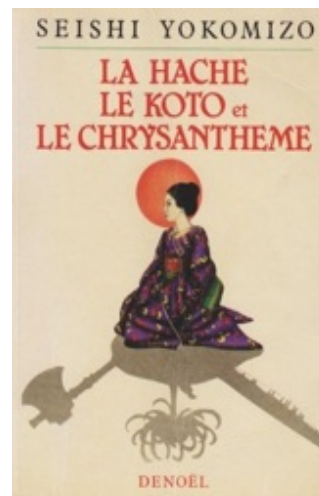
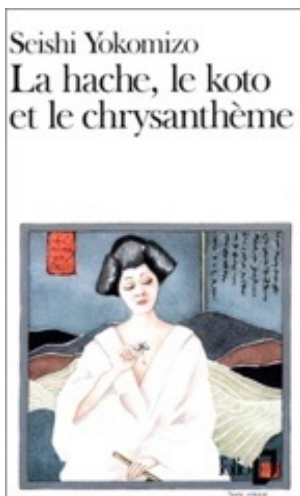
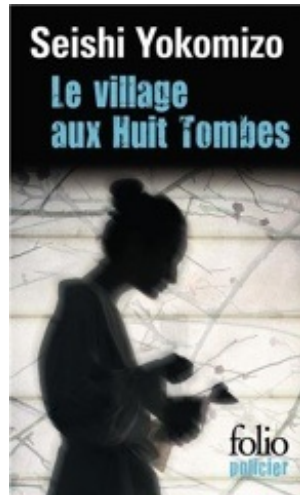
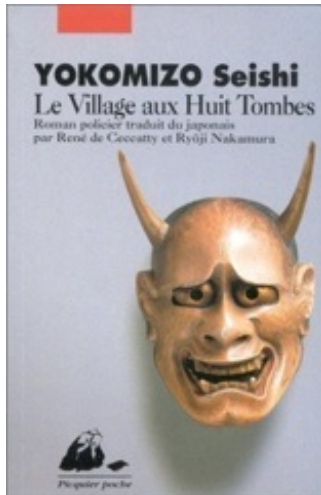


上左から二冊英語「犬神・」 ロシア語「八つ墓・」 フランス語「悪魔の手毬・」ギリシャ語「犬神・」 中国語『悪魔が・』 スペイン語「犬神・」  
韓国語「蝶々・」 タイ語「真珠郎」

# フランス語版

## フランス語版

フランスバージョンです。



フランス語版です、上二冊「八つ墓村」右と下左は「悪魔の手毬唄?」残り二冊は「本陣殺人事件」、フランスでも盛んに読まれているんですね。

# 悪魔の手毬唄

## 悪魔の手毬唄

「そこは兵庫県と岡山県の県境にあたっており、瀬戸内海の海岸線からわずか七里たらずの距離だけれど、・・・」という鬼首村、その村とそっくりの村を訪ねたことがあります。「横溝正史研究3」の付録では美作市旧作東町付近となっていますが、これは七里たらずには遠すぎ、私はダヴィンチ版「金田一耕助」で大平博康氏が書かれている吉永町（現備前市吉永町）に賛成したいと思います、もう少し詳しく言うと元和気郡三国村（現備前市吉永町三国地区）ふる里村になっている八塔寺の麓、かつては県南の町に出るより兵庫県に出る方が確かに早かったであろうということです。

これは金田一耕助を訪ねたわけではなくて、仕事の関係だったのですが、なんとそこで手毬唄を発見しました、もちろん「悪魔の手毬唄」の中の唄は横溝氏の創作ですが、もしかして、これがヒントに？と思われるものです。

「うちの裏の柿の木に雀が三羽とまって、一羽の雀がいうことによ、ゆんべもらった花嫁御、金欄緞子を縫わせたら、襟と奥身がそろわいで、それじゃつまらん出ていちゃれ、出てはいぬるが、何着よに、金欄緞子を着ていちゃれ」

これは戦前この地の小学校に勤めていた教師が、子どもの唄を記録していたもので、現在の三国小学校（かつては村内に小学校が四校もあったと言う、現在は一校で児童数十数人）で見せていただくことができました、これに「返された、返された」と付けば...要するに女性が失敗して返される唄が実在していたのです。



ここでコミックを

ここでコミックを

コミックですが、上段両端のカバーはコミックとは思えない迫力。



上段「血まみれ観音」と言うのは「女王蜂」から。

中国語繁体字

中国語繁体字バージョンです、これは題名を書く必要がないと思います。



日本—推理大師—經典  
07



日本—推理大師—經典  
29



日本—推理大師—經典  
06



日本—推理大師—經典  
17



日本—推理大師—經典  
24



日本—推理大師—經典  
16



日本—推理大師—經典  
36



日本—推理大師—經典  
37



日本—推理大師—經典  
05

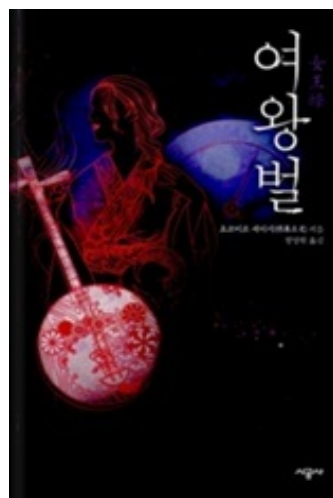
中国語簡体字（大陸）



見慣れない漢字がありますが「悪霊島」「仮面舞踏会」「夜光怪人」「悪魔の寵児」「殺人予告」「白と黒」「八つ墓村」「女王蜂」「獄門島」下は内蒙古自治区のものです。

韓国版

韓国語バージョン



漢字表記もありますが、この図ではわかりにくいと思います。上左から「悪魔の手毬唄」「悪魔が来たりて笛を吹く」「犬神家の一族」「八つ墓村」「獄門島」「病院坂の首絵の家上下」「百日紅の下で」「女王蜂」

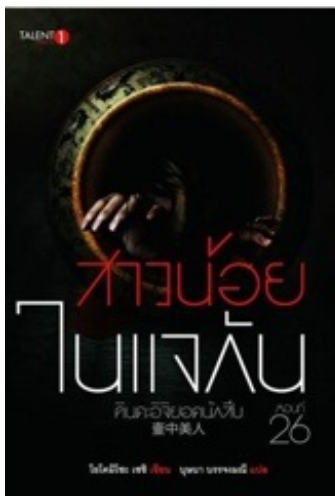
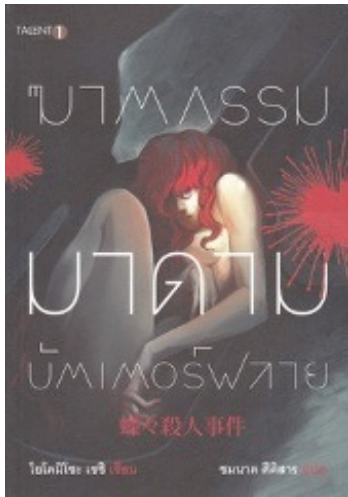




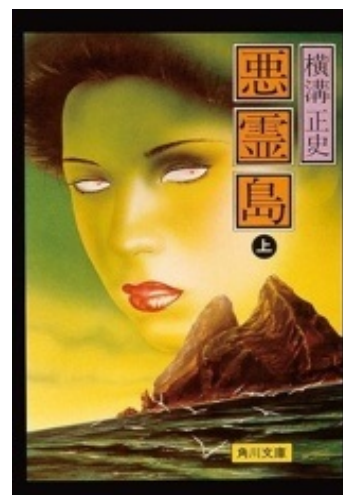
# タイ版

## タイ版

タイバージョンです、タイの文字は面白い。



上左から「蝶々殺人事件」「獄門島」「幻の女」「三つ首塔」「壺中美人」「八つ墓村」「迷路の花嫁」「夜の黒豹」「夜歩く」です。



出版芸術社

出版芸術社は、社名に相応しく「金田一耕助の新冒険」「同帰還」という綺麗なカバーの本を出しています。（はじめに参照）

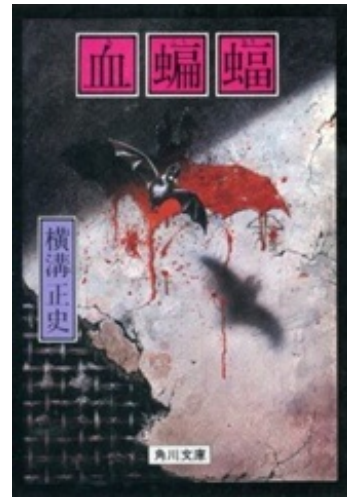


ここではよくわかりませんが、全て非常に綺麗な本です。

講談社

新装横溝正史全集の一部、これは新書判です。





# ご婦人向け！？

## ご婦人向け！？

少し昔の婦人雑誌？横溝本らしくない図柄ですが、「横溝正史傑作選集」（東都書房）です。



毒々しい絵よりこんな方が...とも思うのですがこの女性、どう見ても西洋人...笑

## これが金田一探偵の顔？

## これが金田一探偵の顔？

二頁で触れた「金田一耕助の冒険」です、この顔、あまりもてそうには...



下二段はアンソロジーで、横溝作品の収録されているものです。「鯉沼家の悲劇」の中は「病院横丁の首絵りの家」で「病院坂・・・」ではなくその原型になった作品ですが、ちょっと仕掛けが...





# パロディ・パステーション

## パロディ・パステーション

廣作金田一耕助の活躍、実はこれが大好きです。

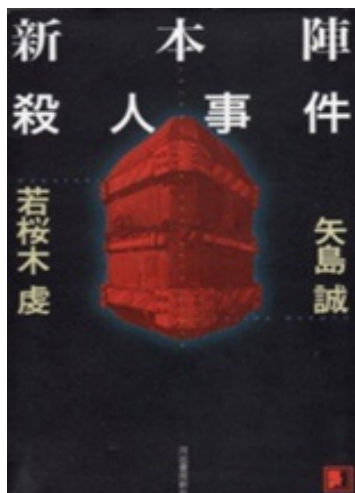


ルパンとホームズがなぜ？実はこの中に一編入っているのです。

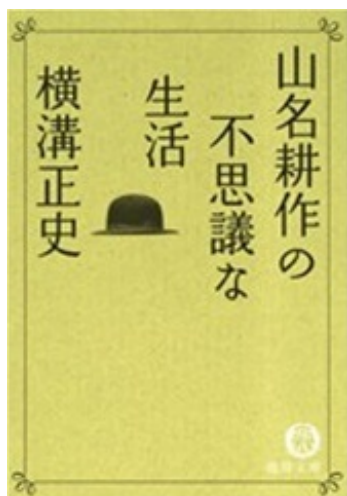
## パロディ2

### パロディ 2

もどきたちその2です。「悪魔が来たりて法螺を吹く」とか「脇本陣殺人事件」とか...笑



下三冊は文庫本ではありません。



# コーヒーブレーク

## コーヒーブレーク



ミスマガと言えば海外もの専用のイメージがあるのですが、左は「本陣殺人事件の殺人」二階堂黎人、右は、「仮面舞踏会」について都筑道夫氏の楽しいエッセイが載っているのです。

下左、黒枠の囲みは角川文庫のように見えるのですが、今は無き現代教養文庫、人体なら眼、手、血、首などに分け、それらが出てくる作品やトリックについて述べた変わった百科事典、横溝作品ではずばり「首」「トランプ台上の首」などなど...

中は蒼林堂古書店、こんな古書店があればいいな...横溝作品ももちろん扱っています。

右、横溝作品には関係ありません、じゃあなぜ？伯備線と言えば横溝ファンならピンときませんか、氏が疎開していた家に行くのも、映画のロケ地満奇洞や広兼邸へ行くのも、八つ墓村に比定されている新見市千屋に行くのも...ところで斎藤栄氏は横溝氏と同様に岡山を舞台にした作品が多いのです、そして倉敷市とゆかりがあるので、「横溝正史研究3」に祝辞を寄せられている倉敷市長さん、ご存知ですか？笑

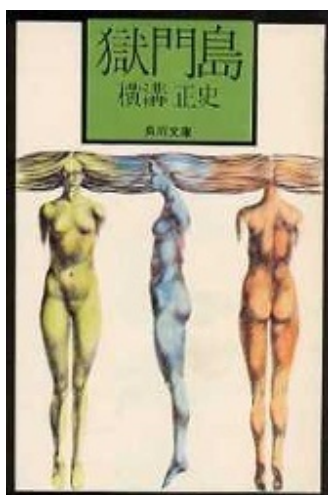
上中、「おねがだからどっか行ってくれない？あんたがいるとよく死ぬのよね。」本ではありません雑誌の広告の一ページです。

# クイズ

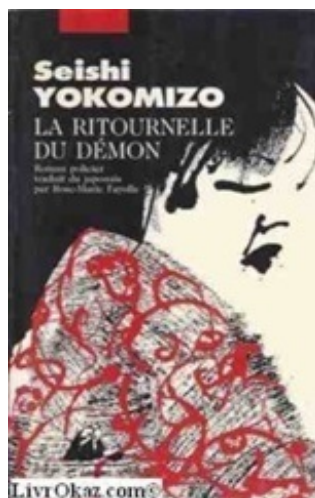
## クイズ

中国南海出版公司版です、日本の題名はなんでしょう？







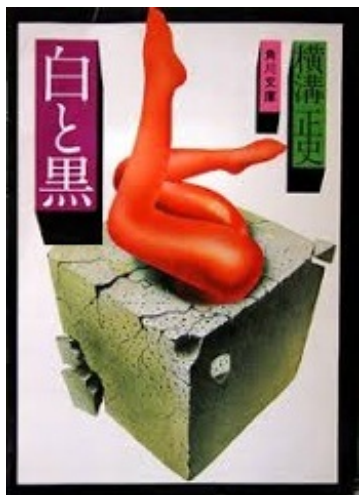


中国語の三冊、みな題名が違うのが面白くて訳者が違えば当然ですが...左は酷い、女性は携帯持ってる！？フランス語版、これ同じ出版社が変更したものです、中が可愛くていいな...



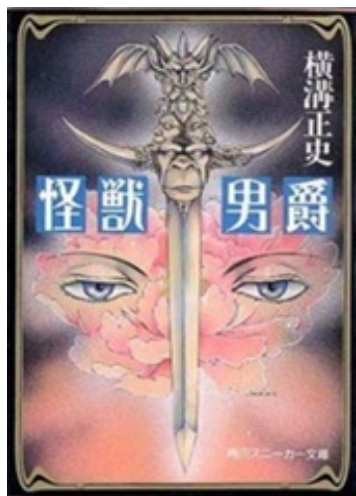
角川文庫 11

確か映画の場面を使ったものが...と、蔵の中?をかき回したらありました! いっしょに面白そうな雑誌も見つかりました、これは最後のページに追加します。



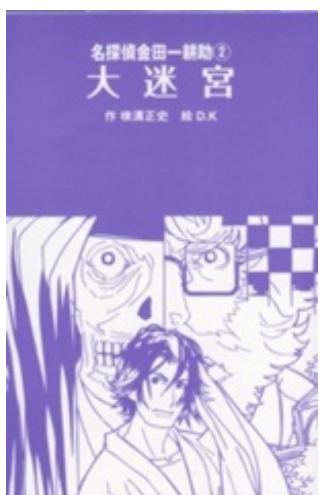
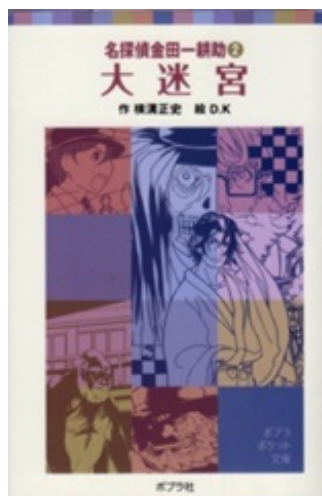
ジュヴナル 3

上は角川文庫、下二段は角川スニーカー文庫です。



現行児童書

現行児童書ポプラポケット文庫です、これはカバーより表紙の方が面白いので両方をスキャンしました。

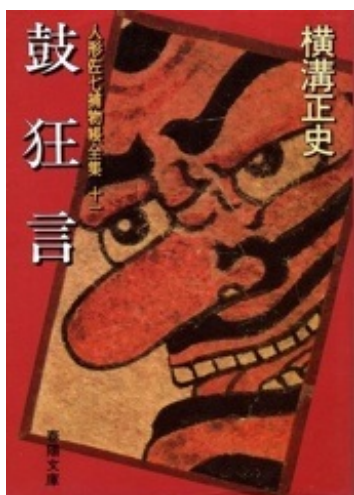


「まんがこのミステリーが面白い」昼寝の枕にしたいほどのボリュームです。

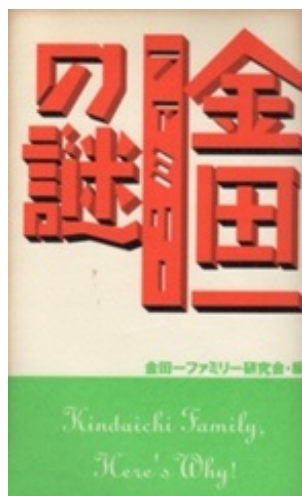
# 人形佐七

## 人形佐七

人形佐七を落としたら片手落ちと思って、ページを追加しました、作品数は金田一耕助より多いのですね。



上、角川文庫 中、春陽文庫 下、嶋中文庫



「僕たちの好きな・・・」はホームズにもあるのです、それがよくできていたのでこれも期待していたのですが少々外れ...右も同じで一番面白かったのは「99の謎」「・・・とは?」「・・・とは?」といかにもハウツー本的なところが気になったのですが。

「金田一ファミリーの謎」は金田一少年が「じっちゃんの〇〇は」と説明する仕組みですがまあ「99の謎」と同じようなもの。金田一耕助ファンは、金田一少年を嫌う人が多いようです、これは原典と矛盾が多くて孫だとは到底思えない、金田一耕助の人気にあやかろうとした下心があまりにも露骨と言うところかららしいのですが、私は何も孫と認める認めないなどの必要はなくて、単にパロディの一つと見れば良いと思っています、ホームズを見てください、子どもの時にもうワトスンに出会うかと思えば引退後に若い娘と結婚したり、息子もいるし娘もいる、原典との整合性などど吹く風でドイルが読んだら卒倒しかねない、それがパロディの世界なのでから。

できたらいいな... (おわりにかえて)

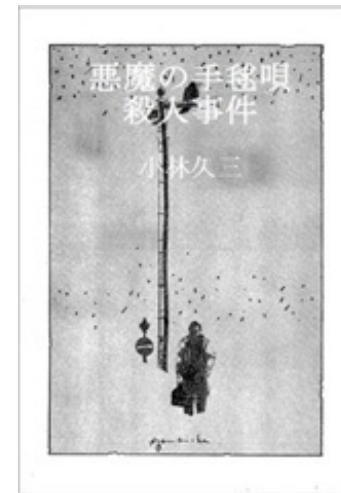
できたらいいな... (おわりにかえて)



横溝正史



横溝正史



ある雑誌で「薔薇の名前に出てくる書物の迷宮のようだ」と紹介され店内で迷わないように〇丁目〇番地と札が貼られている古書店がありました、古書マニアにとっては宝の山今では珍しい本が入手できたのです。残念ながら今は閉鎖され残るは新古書店ばかり、本当の古書を扱うこんな店がまたできないかなあ...中段中は横溝氏の編集で、編者のことば「名探偵今昔」が載っています。下、こんな本は実在しません、幻影城をばらして自炊したものです。私はほとんどの本を自炊しているのです、バカなと思われるでしょうが、しょせんは蔵書一代...青空文庫凄いです、出版された書物そのものを電子化したサイトが出来ないかなあ...そうすればやがては酸化して消滅する本でも後世に残すことができると思うのですが...

誤りがあったのでこのページを追加しました。

五頁春陽文庫の「お役者文七捕物暦 江戸の陰獣」は春陽文庫ではなく徳間文庫でした。  
二十三頁タイ語版、「悪魔の手毬唄」としていたのは「獄門島」です、ここは訂正済み。



この駄作のために動員した本たちです、まだ載せたいものもあるのですが、一頁内でまとめることができなくて...一頁に九冊載せたが、同じ文庫が一冊余ったなどの場合です、まあ落穂拾いの形で追加するかもわかりません。

## 金田一耕助カバー展

<http://p.booklog.jp/book/90628>

著者 : tontokaimo39

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/tontokaimo39/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90628>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90628>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ